

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局 街路交通施設課
担当課長名：松井 直人

事業名 南海本線連続立体交差事業 （松ノ浜駅～泉大津駅付近）	事業区分 街路	事業主体 大阪府	
起終点 自：大阪府泉大津市条南町 至：大阪府泉大津市式内町	延長 2.4 km		
事業概要 当該路線は、南海本線の松ノ浜駅～泉大津駅付近の約2.4 kmにおいて鉄道を高架化することにより、8箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図ることなどを目的として策定された事業である。			
H6年度事業化	H6年度都市計画決定	H8年度用地着手	H11年度工事着手
全体事業費 453億円		事業進捗率 73%	
踏切交通量 32,604台/日		供用済延長 0 km	
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 9.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 103.4/586億円 (事業費：103/585.6億円) (維持管理費：0.36/0.36億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 951/951億円 (走行時間短縮便益：924/924億円) (走行経費減少便益：27/27億円) (交通事故減少便益：0.00/0.00億円)
感度分析の結果 ・感度分析を行ったが、費用対効果分析結果に問題なし。			
事業の効果等 ・鉄道高架化が完了後、踏切が除却され踏切事故の解消、踏切遮断時間が解消され交通渋滞の緩和が図られる。 ・鉄道高架化することにより、市街地の分断が解消される。 ・駅及びその周辺施設の整備に合わせバリアフリー化が促進される。 ・高架下に公共施設や商業施設が整備され、地域住民の利便性が地域のふれあいの場の創設などの効果が期待できる			
関係する地方公共団体等の意見 地域住民の事業に対する理解は深く、事業の早期完成に対する要望が強い。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 踏切交通遮断量の状況に変化はなく、今後も引き続き踏切による交通渋滞が予想される。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 再々評価時点において、進捗状況は用地99%、工事65%となっている。用地買収については、本線部分は既に終了しており残用地についても、将来側道用地になる箇所でも今後も引き続き交渉を続けていく。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 高架工事については、平成20年6月に上り線（なんば方面行き）が高架供用開始した。引き続き下り線（和歌山方面行）の高架化工事をすすめていく。			
施設の構造や工法の変更等 積極的に再生材を使用。			
対応方針 事業継続			
対応方針決定の理由 事業の必要性が認められ、かつ、事業進捗上も特段の支障がないと考えられるため、「事業継続は妥当」			
事業概要図 <div style="text-align: center;">次ページ</div>			

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

事業概要図

